

公表

富士市立こども発達センターみはら園における自己評価総括表

○事業所名	富士市立こども発達センターみはら園			
○保護者評価実施期間	令和7年10月11日 ~ 令和7年10月21日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47	(回答者数)	45
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日 ~ 令和7年10月9日			
○従業者評価有効回答数	(対象クラス数)	6	(回答クラス数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個々に合わせた支援を、個別支援計画に沿って、保育士、指導員、看護師以外に、PT、OT、ST、心理判定員等多職種で実施している。	・児童発達支援管理責任者と担任でカンファを行い、具体的な支援計画を作成している。 ・障害児支援の経験年数が長い職員も多く、進路を見越した支援計画や取り組みを実施している。 ・職員研修や保護者グループワークで専門職から講義を受けている。 ・相談支援専門員もセンター内にいるため、サービス担当者会議を定期的に関係職員全員で行っている。	・職員間の連携を深め、ケース会議等を行っていく。また職員の資質向上に努める。 ・公立保育園や特別支援学校の見学を実施し、移行や就学に向けた個別支援に活かしていく。
2	家庭と連携して支援している。	・各家庭と月に1回面談を行い、情報共有を密に行っている。また、家族参観日やファミリーリーダー、サポート保育などで保護者支援を実施している。 ・保護者会活動を支援している。 ・保護者グループワークを年間を通して実施している。	・就労支援としてサポート保育の時間の拡充を図っていく。
3	個々の発達にあった環境で支援している。	・視覚支援やパーティションを利用した個別支援で、安心できる日課を取り組んでいる。 ・クラス保育以外に、クラス間交流やグループ別日課の活動を実施している。また、隣接する公園で、体力・歩行力別のグループ散歩を実施している。	・クラス間交流で、発達や興味に応じた遊びの提供や展開を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就労支援が保護者のニーズに合っていない。	・フルタイム勤務で仕事をしている家庭に、保育時間が合わない。 ・保育日数拡大の必要性。（慣らし保育期間や長期休みが長い）	・就労保護者支援のサポート時間の拡大 ・保育日数の拡大 ・保護者の就労状況に合わせて、保護者支援の面談や参観日、行事のもち方を検討していく。
2	きょうだい児への支援がない。	・きょうだいの年齢が低く、直接的な支援が難しいことと、イレギュラーな活動に在園児が不安になる。	・行事や参観日、グループワーク等の見直しを行い、来年度の計画に入れしていく。

第三者からの意見 (R7.11.19実施)

・イベントなどに年上のきょうだい児の参加はどうか。小学生の時代に交流ができていると良い。特性の強いお子さんが多いのでお子さんに負担をかけないように普段の様子を見てもらわうくらいでよいと思う。 ・こども発達センターのホームページは小さく魅力を感じない。みはら園だけのホームページがあると良い。人員の手厚さ、専門職の充実、恵まれた環境とこんなに揃っている施設はなかなかないので強みとして打ち出してよいと思う。
